

プラスチックタンクからの漏えいの再現テストについて

- プラスチックタンクの損傷を再現できないかを確認するため、建設重機（バックホー）による再現テストを実施した。
- その結果、キャタピラ部をプラスチックタンクの側面に接触させると、漏えいが確認されたときと同様な穴が開くことが確認された。



上 : 再現テスト状況
右上 : H5エリアで漏えいしたタンクの損傷
右下 ; 再現テストにおけるタンクの損傷

今後の対応について

- タンクエリアにある漏えいしたタンクの類似タンク 5 3 基（当該タンク除く）について、使用しないものは速やかに撤去し、今後も設置続けるものに対しては、内容水、管理者を明確にし、現場に仮置き表示を取り付けることとする。また、通路脇のプラスチックタンクについては、A型バリケード、カラーコーンなどで注意喚起を行うこととする。（4月末日途）
- また発電所屋外全域について、雨水を含む汚染水、発電機・燃料缶・エンジン付き投光器など危険物を内包する容器について、屋外の現場に仮置きする場合は、仮置き表示を取り付け、通路脇ではA型バリケード、カラーコーンをつけるなど注意喚起を行うようにする。（5月末日途）